

## 1. School Management Review 学力と部活動の関係

### 2-3. 学校法人インタビュー 教えて、事務長先生! ～第3回 後編～

### 4. コミュニケーションのツボ ～第7回 「話し手」として意識することは?～

2017年10月吉日

No.43

School Management Review

## 学力と部活動の関係

8月28日、文部科学省が平成29年度全国学力・学習状況調査の結果(正答率)を公表しました。中学校における部活動と正答率との関係について初めて調査を実施していることが今回の大きな特徴です。

まず、部活動の状況について、月曜日から金曜日までの1日当たりの活動時間に関する調査結果は以下のとおりです。

・3時間以上	:11.4%
・2時間以上3時間未満	:43.3%
・1時間以上2時間未満	:29.0%
・1時間未満0時間未満	:4.4%
・全くしない	:11.7%

「全くしない」と回答した生徒が11.7%ですから、9割近くの生徒が何らかの部活動を行っていることがわかります。部活動は生徒の自主的・自発的な参加によるものですが、参加率は非常に高くなっています。

最も多いのが「2時間以上3時間未満」で4割以上を占めています。また、1割以上の生徒が「3時間以上」と回答しています。授業前の早朝練習と放課後の練習を合算した時間と思われそうですが、さすがに毎日3時間以上の部活動はちょっと長すぎるのではないかと個人的には思います。

さて、次に部活動の活動時間と平均正答率の関係ですが、国語、数学ともに正答率の高い順は次のようになっています。

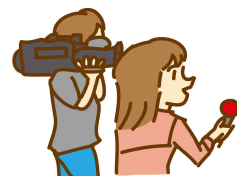
1. 1時間以上2時間未満
2. 2時間以上3時間未満
3. 1時間未満
4. 3時間以上
5. 全くしない

この調査結果だけで部活動と学力の関係を完全に結論づけることはできませんが、「3時間以上」および「全くしない」と回答した生徒が下位になっていることから、適度な部活動は学業に良い影響を与える場合が多いと言えそうです。

部活動に力を入れることも学校の特色の一つではありますが、そのあり方については、教員の長時間労働の是正および生徒の健全な発達という両方の観点から各校でしっかりと議論を重ね、学校として部活動のあるべき姿をしっかりと示すことが必要ではないでしょうか。



# 教えて、事務長先生！（第3回・後編）



大好評の大型連載企画「教えて、事務長先生！」。

9月号に続き、学校法人大阪夕陽丘学園・事務局長の山田清さんにお話を伺いました。

学校法人大阪夕陽丘学園  
事務局長 山田 清 さん



## <Profile>

学校法人大阪夕陽丘学園(1939年創立)



### ◆建学の精神・教育理念

「学園に來たり学ぶ者は、知識・技能より、その第一に“良き人間”になることを心がけなければならぬ」

「愛と真実こそ“良き人間”たる根本であり、真の愛は好き嫌いを越えたより大きな愛であり、真実とは人を偽らず正しい行いをする生活である」

- ✓大阪市天王寺区に高等学校、短期大学を持つ学校法人
- ✓高等学校は2005年に一部を除き男女共学となり、2018年には全コース共学化の予定

## 一急激な少子化の影響で、私学を取り巻く環境は大変厳しい状況です。

そうですね。本学園は短期大学と高等学校を設置していますが、短期大学は全国的な規模で学校数や学生数が急激に減少しています。ただ、本学園の場合、今年度は定員を充足し、学生数は回復傾向にあります。

これについては、就職担当の教職員が学生に対してきめ細やかなサポートを行っており、その成果が表れていることが大きいのではないかと考えています。

学校の実績のために就職率を向上させるのではなく、学生が就職した後のことも見据えて、学生一人ひとりに親身に就職活動をサポートしています。学生にとって、就職は人生の大きな岐路ですから、ちょっとしたことでも気軽に相談できる体制をとっています。

短期大学自体のマーケットは縮小していますし、在籍する学生も少人数ですが、少人数だからこそできることもありますので、そのメリットを最大限に生かしていくことが今後も必要だと思っています。

## 一少人数だからこそできるサポートは大きな強みですね。高校はどのような状況ですか？

高等学校についても生徒募集の状況は厳しいですが、6つのコースを設置して本学園ならではの特色を打ち出しています。

多くの保護者の方々にとって、ご子を私学に通わせるということは、塾や予備校に頼らなくても一定程度に

学力を高め、希望する進路の実現を求めておられるのだと思います。本校はトップクラスの進学校ではありませんが、在学中に十分な学力を身に付けさせ、生徒各自の希望する進路をいかに実現させることができるかが大きな使命だと思っています。

その点では、各学年団が授業内容や生徒指導面で様々な工夫を重ね、チーム力を発揮しながら取り組んでくれており、一定の成果も残してくれているのではないかと考えています。今後に向けては、実施した取り組みの中で効果の高かったものを学校全体のノウハウとして蓄積し、より良い成果を出していきたいですね。

また、生徒が本校を卒業する時に、充実した学校生活を送ることができたと思ってもらえるような学校作りも大切です。ですから、全ての教職員が生徒の満足度をいかに向上させるかという視点を持つことが今後はより重要になると思います。



10万冊を超える蔵書を誇り、数多くの専門書が揃う図書室

## ■事務方もスチューデント・ファースト！

一では、事務方として生徒の満足度を向上させるためにどのようなことが求められますか。

事務方として常に意識してほしいことは、「スチューデント・ファースト」です。つまり、学生生徒の満足を最優先に考えて、そのためには何を優先的に取り組むべきかを判断しなければいけないということですね。

事務方の仕事の特性として、直接的に学生生徒に関わるケースは少ないですが、間接的にであれば必ず何らかの形で関わります。その関わりを意識しなければ仕事が部分最適になってしまい、ひどい場合には単なる個人最適になりかねません。

ですから、事務方は常に学生生徒の満足のために全体最適の視点を持つことが重要だと思っています。

一事務方が全体最適の視点を持つために、何か工夫をされたことはありますか。

私が本学園に入職した当時は、職員の配置転換やジョブローテーション等は一切なく、職員が所属する部門や担当業務が変わることのない組織体制でした。そのような場合、各業務においてそれぞれの職員の専門性が高まるといった点ではいいのですが、どうしても部分最適や個人最適になりがちです。

そのような状況で「スチューデント・ファースト」と掲げたところで、職員の意識や行動はそう簡単に変わる



2017年にリニューアルしたブライダルデザイン実習室

**「スチューデント・ファースト」の視点はこれからの学校経営において重要なポイントになりそうですね。また、それを実現する組織へと変革することの大切さも十分に伝わってきました。山田さん、お忙しい中、インタビューにご協力いただき、本当にありがとうございました。**

(取材:木村 滋)



「スチューデント・ファースト」に徹する山田さん

ものではありません。どんな人間でも変化がないとマンネリ化しますし、そうなると視野も狭くなり、新たな発想も出にくくなるものです。

そこで、私が着任した次年度から、部門の垣根を越えて管理職の大幅な配置転換を行いました。立場や環境が変わるとそれだけで意識は大きく変わるものです。配置転換直後は一時的に業務効率が低下しましたが、すぐにリカバリーできましたし、何より組織が活性化したことが大きな効果でした。

一すごいですね！まさに「スチューデント・ファースト」を実現するための強い意思と行動の賜物ですね。今後は事務方が担う役割はますます重要になっていきそうですね。

事務方には日々こなすべき仕事が目前にたくさんありますが、本来は学校全体の戦略や企画の立案を担うスタッフであると思っています。そういう意味では、「事務」という表現自体があまり良くないのかもしれませんが、常に高い意識と全体最適の視点を持って、主体的に学校運営に携わることが求められるのではないかと思います。

目の前の仕事に忙殺されることもあると思いますが、学生生徒のためにどんなときでも高い志を持って頑張っていきたいですね。

学校経営に関連する情報を好評発信中！

学校経営ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」 <http://ysconsult.hatenablog.com/>

☆8月の閲覧数No.1記事は「共働き時代のPTAをつくる」(2017年8月22日掲載)



組織の活性化を図る上で欠かすことのできないコミュニケーション。

そんなコミュニケーションをより効果的なものにするためのちょっとしたツボをご紹介します。

## 第7回 「話し手」として意識することは？

第5回、第6回は相手の話をしっかりと聴くための技法、「アクティブ・リスニング」をご紹介します。これで「聴き手」として必要なテクニックはバッチリです！さあ、今回は効果的なコミュニケーションのために必要な「話し手」としてのテクニックを見ていきましょう！

### ●ハッキリと、適度なスピードで！

「聴き手」として最も困るのが、「話し手」の話を聞き取ることができないことです。その代表的な例として、声が小さすぎて聞き取れない、早口すぎて聞き取れない、などが挙げられます。これは、一対一での会話だけではなく、会議や打ち合わせなど、複数の人を相手に話をするときにも当てはまります。「聴き手」に伝わっていなければ何も言っていないのと変わりませんので、「聴き手」が聞き取れる程度の声の大きさと、かつ、聞き取りやすいスピードではっきりと話すことをまずはしっかりと意識しましょう。

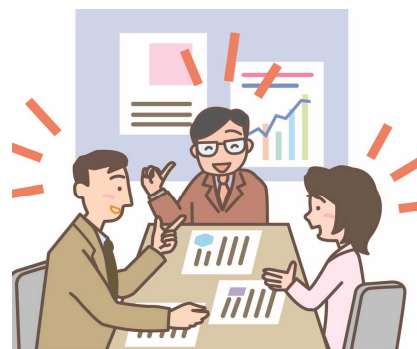
### ●内容を簡潔にまとめる

話をしている間に話題が広がりすぎて論点がどんどんずれていってしまうことってありますよね。「話し手」の話の内容がまとまっておらず、伝えたいことのポイントが定まっていないうとき、「聴き手」は混乱に陥ってしまいます。それでも、頑張って聴いてくれている間はいいのですが、話が冗長になると「聴き手」の集中力や理解力は低下してしまい、酷い場合には聴くことを諦めてしまうこともあるでしょう。話をする際には、まず何を伝えたいのかを明確にし、それを簡潔に伝えるように心掛けましょう。また、話の中で指示語（これ、それ、あれ、どれ）を多用すると「聴き手」が混乱するおそれがありますので、これも注意が必要です。

### ●相手の前提知識を考慮する

「聴き手」である相手が、常に「話し手」と同じ情報量、知識量を有しているとは限りません。ある事象について、「聴き手」が前提知識を有していないにも関わらず、「話し手」がそれを考慮せずに話をどんどん進めても、ほとんど理解してもらえないでしょう。相手に理解してもらえないということは、「話し手」の最大の使命を果たせていないということです。相手の理解力のなさを嘆くのではなく、相手に合わせた伝え方を考え実践することが必要です。また、業界特有の専門用語やカタカナ言葉を使う際にも注意が必要です。

どれも基本的なことばかりですが、声が小さくて聞き取れない、冗長で話のポイントがよくわからない、話の内容が難しく理解できない、というようなことは誰もが経験していることではないでしょうか。「話し手」の最大の使命は、「聴き手」に正しく理解してもらうように伝えることです。その使命を確実に果たすことができるよう、上記の3つのポイントをしっかりと意識して下さいね！



未来へつなぐ、夢がある。

株式会社ワイズコンサルティング／ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp

URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)

Facebookページ: <https://www.facebook.com/ysconsult>